

ポルトガル語能力検定試験とアストゥリアス語の言語能力認定

黒澤直俊

1. ポルトガル語能力検定試験
 - 1.1. ポルトガルにおけるポルトガル語能力検定試験
 - 1.2. ブラジルにおけるポルトガル語能力検定試験
2. アストゥリアス語の教育と言語能力認定
 - 2.1. アストゥリアス語
 - 2.2. 歴史
 - 2.3. アストゥリアス語に顕著な言語特徴
 - 2.4. アストゥリアス語の教育と言語能力認定

1. ポルトガル語能力検定試験

日本国内で独自に行なわれている検定試験は存在しない。ポルトガル政府およびブラジル政府が行っている試験を日本国内で受けることが出来る場合がある。

1.1. ポルトガルにおけるポルトガル語能力検定試験

ポルトガルのポルトガル語に関しては、ポルトガル政府外務省の付属機関であるカモンエス院 Instituto Camões が実施している能力検定試験がある。Português Língua Estrangeira 「外国語ポルトガル語」の頭文字を取って PLE と略称され、正式には Sistema de Avaliação e Certificação de Português Língua Estrangeira (PLE) 「外国語ポルトガル語評価検定システム」と呼ばれ、1999 年に、カモンエス院がリスボン大学文学部と提携し創設した Centro de Avaliação de Português Língua Estrangeira (CAPLE) 「外国語ポルトガル語評価検定センター」を通じて、試験実施センターに認められた 39 カ国の 75 機関において全世界同日で年 4 回実施されている。

リスボン大学文学部は、1990 年に ALTE (Association of Language Testers in Europe) の創設に参加し、代表機関のひとつとなっているが、この「外国語ポルトガル語評価検定システム」はヨーロッパ共通枠組み (CEFR、ポルトガル語で Quadro Europeu Comum de Referência) に準拠し、ALTE の Level1 から Level5、すなわち共通枠組みの A2-C2 の 5 つのレベルに対応するものとしている。この「外国語ポルトガル語評価検定システム」のレベル分けは以下である。

CIPLE – Certificado Inicial de Português Língua Estrangeira 「外国語ポルトガル語入門証明」

DEPLE – Diploma Elementar de Português Língua Estrangeira 「外国語ポルトガル語初級資格」

DIPLE – Diploma Intermédio de Português Língua Estrangeira 「外国語ポルトガル語中級資格」

DAPLE – Diploma Avançado de Português Língua Estrangeira 「外国語ポルトガル語上級資格」

DUPLE – Diploma Universitário de Português Língua Estrangeira 「外国語ポルトガル語大学資格」

試験は「Muito Bom とてもよい」、「Bom よい」、「Suficiente 十分」、「Insuficiente 不十分」の 4 段

階で評価され、「Muito Bom」、「Bom」、「Suficiente」が合格である。感覚的には、日本の大学の「優、良、可、不可」の感覚に近い。試験の結果は、CAPLE のホームページで公開されているので、受験者数と成績は知ることが出来る。2008 年と 2011 年 3 月期における各レベルの受験者数と成績は表の通りである。

2008 年の外国語ポルトガル語評価検定システム受験者数と成績						
	総数	合格者	MuitoBom	Bom	Suficiente	Insuficiente
CIPLE「入門」	67	39	12	17	10	28
DEPLE「初級」	78	54	10	19	25	24
DIPLE「中級」	83	57	1	25	31	26
DAPLE「上級」	67	46	0	21	25	21
DUPLE「大学」	18	18	1	10	7	0

2011 年 3 月期の外国語ポルトガル語評価検定システム受験者数と成績						
	総数	合格者	MuitoBom	Bom	Suficiente	Insuficiente
CIPLE「入門」	222	165	17	75	73	57
DEPLE「初級」	90	79	7	37	35	11
DIPLE「中級」	130	109	2	60	47	21
DAPLE「上級」	80	71	2	22	47	9
DUPLE「大学」	32	30	2	13	16	2

これは、39 カ国 75 機関において行われた試験に関する全受験者のデータである。近年受験者の増加が見られるが合格率や成績分布には大きな変化はない。試験問題は各レベルごとに設定され、受験者もレベルを選んで試験を受ける。各レベルに対する合格が、3 段階の成績で示され、かなりの幅があり、英語などで国際的に認証されている試験の成績が数値で具体的にはっきりと示されているのに比べると、かなりアバウトであるが、受験者数から分かるように試験自体の規模が小さいことによるものと考えられる。また、この 5 段階の試験は、レベルについては、ヨーロッパ共通枠組み (CEFR) や ALTE のものと連動するとはっきりと謳われ、各レベルについて言語能力が詳細に規定されているが、実際の試験の評価は経験則に則って行われている。この試験はブラジル政府によっては公認されていない。

1.2. ブラジルにおけるポルトガル語能力検定試験

ブラジル政府が公認し、ブラジルにおいて就労や大学等の高等教育機関が採用している能力検定試験は Celpe-Bras 試験と通称される「外国人ポルトガル語技能証明」Certificado de Proficiência em Língua Portuguesa para Estrangeiros であり、1999 年から実施されている。ブラジル外務省の後援の

もとブラジル国内の 19 大学と世界 26 各国の 35 機関のセンターを通じて実施する方式は、前述のポルトガル政府の試験とほぼ同じであるが、こちらの試験ではレベルの設定が 4 つである。公開されている資料によれば、4 レベル設定の基礎は 1) 文脈適正能力 *adequação ao contexto* と呼ばれる、談話と対話者の水準を考慮に入れた理解・産出能力、2) 談話適正 *adequação discursiva* として測られる発話構造の一貫性・凝縮性、3) 言語適正 *adequação linguística*、すなわち語彙と文法構造の適切な使用、の 3 点である。なお、この試験はヨーロッパ共通枠組みや ALTE との連携は一切取られていない。レベルと各レベルの記述は以下の通りである。

1) 中級証明 *Certificado Intermediário* : ポルトガル語の技能は限定的であり、話し言葉、書き言葉ともに限定されたテーマに関して、既知の文脈で日常的な状況での言語使用である。既知の文脈に適当な、単純な構造と語彙が使用され、未知の文脈においては能力的に不十分な場合もあり、母語やその他の外国語からの干渉を示すことがある。

2) 中上級証明 *Certificado Intermediário Superior* : 基本的な技能に関しては、中級とほぼ同等であるが、母語やその他の外国語からの干渉による、発音や書き言葉における能力不足の現れは中級より少なくなった段階。

3) 上級証明 *Certificado Avançado* : 高度のポルトガル語の技能を有し、話し言葉、書き言葉ともにさまざまなテーマに関し既知の文脈でも未知の文脈でも、流暢に理解し、産出する能力を有する。このレベルでは、かなり複雑な構造と語彙が使用され、未知の文脈においてのみ、部分的に能力的な不十分を示す程度である。

4) 最上級証明 *Certificado Avançado Superior* : 基本的な技能に関しては、上級と同等であるが、母語やその他の外国語からの干渉がより少なくなった段階で、大学等高等教育機関の正規の課程に入学するために要求される場合がある。

なお、試験は 2 時間半の試験時間からなる筆記試験と 20 分の面接試験から構成され、その結果を総合的に判断し、レベル分けと認定が行われる。試験問題は全レベルに共通で、各年度の問題は公開されている。問題を見ると、新聞や時事問題を扱った雑誌などからの出題が多く、文学作品はあまり用いられていないが、回答のかなりの量を作文し論述しなければならない。

2. アストゥリアス語の教育と言語能力認定

2.1. アストゥリアス語

アストゥリアス語は、スペイン北部のアストゥリアス自治州を中心に話されるロマンス系の少数言語で、系統的にはガリシア・ポルトガル語とスペイン語の中間に分類されるアストゥリアス・レオン語グループに属する。このグループの言語は、アストゥリアス語の他に、カスティージャ・レオン州のレオン語、ポルトガル東北端地域のミランダ語などが現在でも残っている。1980 年代以降の言語運動の中でアストゥリアス言語アカデミー *Academia de la Llingua Asturiana* は正字法と文法の規範を定めている。規範そのものに、方言の特徴が変種として採用されているが、実際の言語運用はさらに地域の方言色を強く受けているとともに、語彙や表現ではスペイン語からの影響が多く認められる。もともとは、たとえば山間部の素朴な話し手などの意識には、アスト

ゥリアス語かスペイン語かといった区別はない。標準語の規範は、テレビやラジオなどマスコミ、大学、公共機関での比較的改まった場で用いられるが、1990年にかけてまとめられたもので、社会的歴史的に確立しているとは言えないので人工的な印象を与えることもある。法的には、保護育成言語とされ、ガリシア語やカタロニア語などと異なり、自治州の公用語にはなっていない。話し手の数は40万人くらいとされる。アストゥリアス語内部の方言同士ではお互いに通じない場合もある。

アストゥリアス・レオン語は、中世に文語形成が進められなかったことや、背景としての国家を欠いていたなど規範化が行われなかったことで、方言特徴の分布が、特にアストゥリアス自治州の場合は、山岳の多いその特徴的な地形のため、おそらく現在でもイベリア半島のロマンス語の初期の状態を比較的良く反映していると考えられる。近年、レオン語やミランダ語地域でも、言語運動が比較的盛んであるが、アストゥリアス自治州では安定した成果を挙げている。

なお、厳密な意味でアストゥリアス語とされるのは、アストゥリアス自治州でも西側を流れるナヴィア川 Río Navia 以西を除く地域である。ナヴィア川以西のガリシア自治州に接する地域の方言は、ガリシア・アストゥリアス語 gallego-asturiano と呼ばれ、州内での地域語の研究や振興をその目的とするアストゥリアス言語アカデミー Academia de la Llingua Asturiana では、正字法等を別に定め、言語教育者の養成も別途行なうなどしている。一見するとアストゥリアス語の西部方言に近い印象を与えるが、系統的にはガリシア・ポルトガル語に分類される言語である。また、アストゥリアス自治州に接するカスティーリャ・レオン州やカンタブリア州内でもアストゥリアス語が話される地域があるが、これらの地域は言語運動の外にあり、初等教育における導入教育はほとんど行われていない。なお、アストゥリアス自治州は、スペイン語では Principado de Asturias、アストゥリアス語では Principáu d'Asturies で、アストゥリアス語を示す言語名称は、アストゥリアス語で asturianu、スペイン語で asturiano である。従って、より厳密には「アストゥリエス」と表記するのが正しいが、本稿ではスペイン語からの「アストゥリアス」を用いる。また、「アストリアス」とすることも可能だが、本邦での慣例にならい「アストゥリアス」とした。もっとも、この転写方式を貫けば、「ポルトガル」 Portugal も「ポルトウガル」とすべきということになる。あえてなにかちがいを求めれば「アストゥリアス」では「トゥ」に強勢があるが、「ポルトガル」で「ト」ではなく「ガ」に強勢があるくらいである。言語名に関しては、現地ではアストゥリアス語をさして、バブレ bable という名称も古くからある。しかし、bable も asturiano も両者ともかなり古い時代から用いられ、必ずしも bable が本来の呼称ではないという指摘があることは注意すべきである。ガリシア・アストゥリアス語 gallego-asturiano に関しては、現地では伝統的にファーラ fala と呼ばれている。

以下、アストゥリアス語の代表的な特徴を近隣の言語と対比してみる。ガリシア・ポルトガル語は、母音間の -l- と -n- を脱落させるのが特徴であるのに対し、アストゥリアス・レオン語やスペイン（カスティーリャ）語では、ラテン語の短い E, O にさかのぼる、ガリシア・ポルトガル語で広い e, o で現れる母音を二重母音化する。以下の例ではわからないが、二重母音化の条件や結果はアストゥリアス・レオン語とスペイン語では同じではない。近隣言語にないアストゥ

リアス語の特徴としては、語頭の l- を口蓋化することと、語中の -d- を脱落させる場合があることがある。

言語特徴	latin	galego-português	asturianu	castellano
-l-	SALIRE	sair	salir	salir
-n-	MANU	mão	mano	mano
二重母音化	PETRA/PORTU	pedra / porto	piedra / puertu	piedra / puerto
l-	LUNA	lua	lluna	luna
-d-	LATUS	lado	llau	lado

アストゥリアス語内部でも、地域間の言語差は激しく、すでに述べたように相互理解に支障がある場合もある。特に、西南部山間部では l.l vaqueira 「牛飼いのチェ」と呼ばれる舌尖破擦音があり、ch で表記される舌背破擦音との間に音韻対立がある方言がある（たとえば Somiedo のあたりなど）。l.l vaqueira は語源的に他の地域の硬口蓋側音に対応するが、このあたりの方言では、メタフォニーによって母音が変化し対応がずれていたりすることや語彙のちがいのために他の地域の方言話者の理解が困難になっていると考えられる。一方、アカデミーが普及に努めている標準アストゥリアス語の場合は、よほどアストゥリアス語特有の語彙を多く使わない限り、スペイン語の話し手が理解することは容易である。実際の言語特徴は複雑に交錯するが、アストゥリアス語の方言は、西部方言、中央方言、東部方言の3つにおおきく分け、さらにそれにかぶせて北部の沿岸よりの地域と南部の山間部に分けて考えるのが普通である。アストゥリアス地域特有の事情として、ローマ化以来ほとんど実質的な人口の移動がなかったことがその要因である。例外的に、羊飼いや牛飼いや山間部と沿岸部を季節的に移動するが、移動先での現地の人々とのコミュニケーションはほとんど起こらないため、言語接触による収束的变化は生じない。さらに、動物や植物にアストゥリアス特有の種が多いこととも、自然地理的な閉鎖性として地域間の言語変種の孤立化を説明する。もっとも、20世紀以降は、この州の主要産業が石炭などの重工業にあったため州外からの人口の流入があり、スペイン語化が激しい。なお、上で述べたように、アストゥリアス自治州の言語としてはこれに西部地域のガリシア・アストゥリアス語が加えられる。以下に、特徴的な言語特徴を挙げる。

特徴	語彙	地域
e / ie	terra / tierra	ガリシア・アストゥリアス語 / アストゥリアス語
l- / ll-	lume / llume	ガリシア・アストゥリアス語 / アストゥリアス語
ll- / l.l-	llobu / l.lobu	西部中央方言と東部方言 / 西部南部方言
-as / -es	fabas : fabes	西部方言と東部方言 / 中央方言
f- / h.-	fierru / h.ierru	西部方言と中央方言 / 東部方言

最後から2番目のものは、名詞・形容詞の女性複数形語尾や動詞の2人称単数形においてみられる対立で、ガリシア・ポルトガル語やスペイン語、アストゥリアス語の西部方言の *-as* が、標準アストゥリアス語の母体となっている中央方言では *-es* で現れる。最後のものは、アストゥリアス語は、ガリシア・ポルトガル語同様、ラテン語の語頭の *f*- を保存し、スペイン語のように「*f* > *h* > ゼロ」の変化を経ることがなかったのが大部分であるが、スペイン語に近い東部方言では、その中間段階の調音にあたる喉頭摩擦音の形で残っている。アカデミーの表記では *h* の下、または横にピリオドを打った綴りで表す。音声的にスペイン語の *j* の音に近いので、語によっては混用されている。以下、方言地図を示す。A B C D が西部方言、F G が中央方言、H I J が東部方言である。C D の左側の地域が、ガリシア・アストゥリアス語地域で、アストゥリアス自治州に属するが、言語的にはガリシア語である。ただし、アストゥリアス語の影響が強いため、この地域の初等教育段階で導入されている地域語はガリシア語ではない。

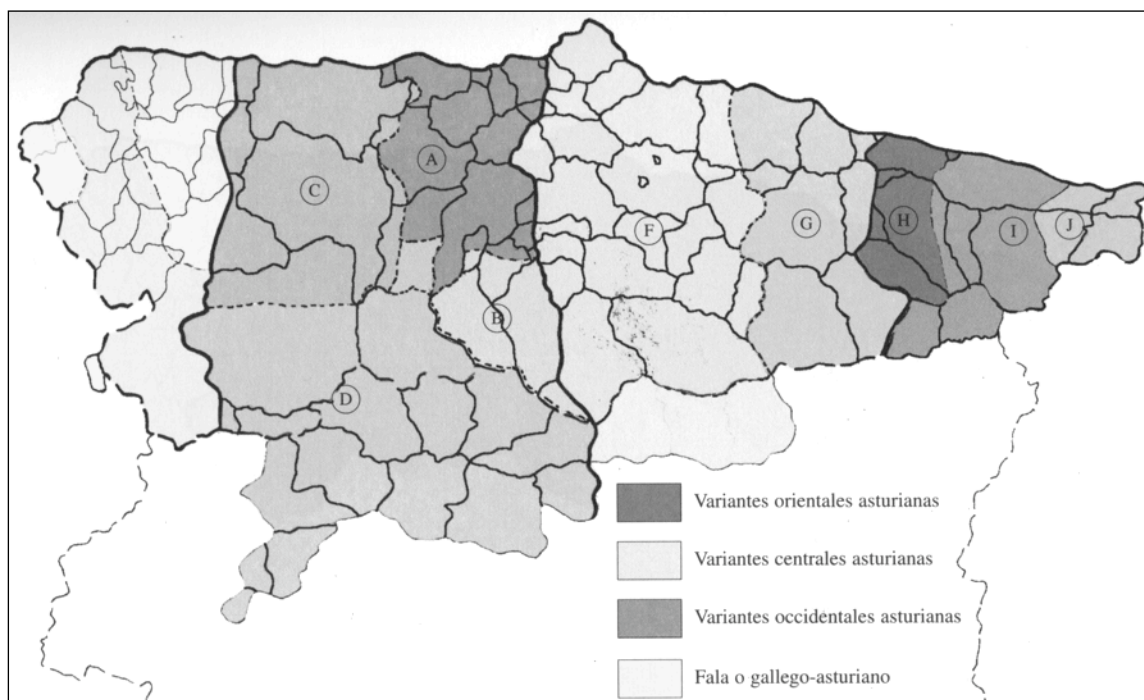


Fig. 3

2.2. 歴史

アストゥリアス語は、ローマによる植民によって定着したラテン語が変化したものであるが、イベリア半島の他のロマンス語に比べて、アラブ支配に対するレコンキスタによる人口移動の影響がもっと少ない言語である。すでに8世紀にはアストゥリアス王国(718-910)が成立していたとされる。ただし、初期のアストゥリアス王国の特徴は、王の交替が著しいことで、王権が十分に確立していなかったのではないかと思わせるものがある。この頃、722年にレコンキスタによる最初の勝利とされる Covadonga の戦いが、現在の Cangas de Onis のあたりで行なわれたことになっているが、戦いの時期も規模も不明である上、実際に行なわれたという証拠は何もない。

その後、914年にオルドーニョ2世 Ordonho II が主都をオヴィエド Oviedo（アストゥリアス語で Uviéu）から León へ遷都し、レオン王国となる。これによって、アストゥリアスの地域は歴史の表舞台から遠のき、結果的に言語や文化など地域の特殊性が温存されることになる。その間、1115年には、アストゥリアス語でかかれた最初の文献である *Fueru d'Avilés* 「アヴィレス法」をはじめとして多くの古文書文献を残しているが、翻訳などをはじめとする中世文学テキストの成立は見られなかった。さらに14世紀以降は、カスティーリャ（スペイン）語が公用語となり、アストゥリアス語は低い地位におかれるが、1639年にアストゥリアス語で書かれた最初の文学作品（詩）である「*Pleitu ente Uviéu y Mérida pola posesión de les cenices de Santa Olaya*», Antón de Marirreguera（「聖オライアの遺物の所有をめぐるオヴィエドとメリダの争い」）がアントン・デ・マリレグラ Antón de Marirreguera（当時の聖職者アントン・ゴンサレス・レグラ Antón González Reguera のペンネーム）によって作られる。アストゥリアス語についてカスティーリャ語で書かれた最初の文法書「*Gramática Asturiana*」はフアン・フンケラ・ウエルゴ Juan Junquera Huergo によって1869年に刊行される。この間、文学作品などは散発的に見られるが、ガリシアやカタロニアなどのような言語文学運動は停滞気味である。実質的に現代につながるのは、スペインの民主化にかけてであり、1974年に、現在のアカデミーの前身となるバブレ語委員会 *Conceyu Bable* が創設され、1975年のフランコの死によるスペインの民主化とともにアストゥリアス語の再生運動 *Surdimientu* が起こり現代文学が芽生える。1978年のスペイン国憲法で保障された言語権に基づき、1980年にアストゥリアス言語アカデミー *Academia de la Llingua Asturiana* が創設される。1981年にはアストゥリエス自治憲章 *Estatutu d'Autonomia d'Asturies* で「バブレ語は保護される。その使用やマスコミへの拡大、習得が推進されるだろう」*«Sofitaráse'l Bable. Daráse puxu al so emplegue, al so espardimientu nos medios de comunicación y al so deprendimientu...»*と規定される。アストゥリアス語が学校教育へ導入されたのは1983年からである。現在、アストゥリアス語の使用を位置づけているのは1998年のアストゥリアス語／バブレ語の使用と保護法 *Llei d'Usu y Proteición del Bable / Asturianu* である。

2.3. アストゥリアス語に顕著な言語特徴

必ずしも網羅的なものではないが、近隣の言語と比較して興味深いと思われる特徴を挙げる。

1) メタフォニー *metafonia* による強勢母音の音価の揺れ

語末に *-u, -i* があると逆行同化現象により、強勢母音の変化 $e > i, o > u, a > o / e$ が起こる：*pelu > pilu, perru > pirru, llombu > llumbu, gochu > guchu*。これにより、名詞の単数形にバリエントが生じ、*pelu ~ pilu, pelos* 「髪の毛」、*perru ~ pirru, perros* 「犬」、*llombu ~ llumbu, llombos* 「背、背肉」、*gochu ~ guchu, gochos* 「豚」となる。形容詞についても *solu > sulu / sola / solos / soles / solo* 「たったひとつの、～だけ」（男性単数／女性単数／男性複数／女性複数／中性）、*solteru > soltiru / soltera / solteros / solteres / soltero* 「独身の」といったパラダイムになる（中性は、不可算物質名詞に適用される形）。地域によっては、これらの変化が進行中であるため、問題の位置で $e \sim i, o \sim u$ の対立を区別出来ない話者も多いと言われる。

2) 無強勢母音の音価の揺れ

アストゥリアス語の多くでは、無強勢の位置では o~u, e~i の発音に揺れがある。アカデミーの正字法は、語源的原理から前者を便宜的に採用し、発音等についてはバリエントを認めている。また、文学テキストでは著者固有の方言特徴を強調する場合があります、以下のような綴りも広く見られる。

probín ~ prubín かわいそうな (指小辞) dormir ~ durmir 眠る sofrir ~ sufrir 苦しむ
pequenín ~ piquenín 小さい (指小辞) vestir ~ vistir 着る sentir ~ sintir 感じる

3) 素材の中性 neutro de materia

アストゥリアス語では不可算の物質名詞に特別な用法がある。形容詞に対応する形があり、名詞に後置される場合、名詞が不加算の物質名詞であるときにこの形が使われる。文法では中性と呼ばれている。形容詞が前置されるときや可算扱いのときは名詞の性に一致した男性単数形や女性単数形が用いられる。また、コピュラ文の述語や目的語の代名詞で受けるときも中性形が用いられる。

形容詞 (男性単数 / 女性単数 / 男性複数 / 女性複数 / 中性)

bonu / bona / bonos / bones / bono よい

malu / mala / malos / males / malo 悪い

prietu / prieta / prietos / prietes / prieto 黒い

そのテーブル : la mesa, les meses (定冠詞 + 加算名詞 × 単複)

その黒いテーブル : la prieta mesa, les prietes meses / la mesa prieta, les meses prietes

そのよいシドラ : la bona sidra / la sidra bono (定冠詞 + 不加算名詞)

その乾いた薪 : la lleña seco (la seca lleña) (定冠詞 + 不加算名詞)

二本の乾いた薪 : les dos lleñes seques (可算名詞扱い)

El carbón ye prieto. 石炭は黒い (*prieto)

the coal is black

Esta sidra nun ta malo. このシドラは悪くない (*mala)

this cider not is bad

ごく少数ではあるが、単数形と複数形の他に中性形のある名詞がある : 標準語では filu, filos, filo 「糸」(最後が中性形)、pelu, pelos, pelo 「髪の毛」、fierru, fierros, fierro 「鉄」の3つが認められている。

4) 冠詞の前接

アストゥリアス語では定冠詞男性単数形の el は、その前の単語が母音で終わるとき前接する。ただし、後続する語が母音で始まるときは異形が現れ、その限りではない。この特徴はポルトガルのミランダ語とも共通する。

Garró'l llibru. 彼(彼女)はその本をつかんだ (garró + el llibru)

Diz que'l ser humano ye cruel. 人間は残酷だと彼は言う (...que + el ser...)

Diz que l'home nun lo creyó. その男はそれを信じないと彼は言う (...que + el + home...)

5) 目的語代名詞の語順

スペイン語よりも、むしろポルトガルのポルトガル語に近く動詞に後置されるのが基本語順である。

6) その他

一例として、スペイン（カスティーリャ）語やポルトガル語との語彙の対応を以下に示す。

意味	asturianu	castellano	português
寛大な	arrogante	generoso	generoso
臆病な	medrosu	cobarde	cobarde
内気な	cobarde	tímido	témido
すてきな	curiosu	guapo	bonito
詮索好きな	achisbón	curioso	curioso
場所	sítiu	lugar	sítio, lugar
集落	llugar	población	povoação
疑り深い	sospechosu	suspicaç	desconfiado
被る	carecer	sufrir	sofrir

*arrogante: スペイン語やポルトガル語では「傲慢な」

アストゥリアス語では *arrogante y curiosu* / *arrogante y curiosa* 「寛大ですてきな」というのがひとに対する最高の褒め言葉である。ポルトガル語ならば「傲慢で詮索好きな」という最低の人間の品格となる。

2.4. アストゥリアス語の教育と言語能力認定

アストゥリアス自治州では、初等教育から高等教育までアストゥリアス語の教育が行なわれている。必修ではないため、教育歴には差があり、アストゥリアス語の運用能力は一様ではない。アストゥリアス言語アカデミーではオヴィエド大学と共催で 1990 年代からアストゥリアス夏期大学 *Universidá Asturiana de Branu (UABRA)* と称するサマーコースを実施している。目的はアストゥリアス語の振興の他に初等中等教育教員の養成があり、このコースの所定の科目を修了すると教員免状の免許科目にアストゥリアス語が追加される。2009 年からは、コースの別科としてガリシア・アストゥリアス語が開講されている。このコースは、2010 年からはアストゥリアス西部のカンガス・デル・ナルセア *Cangas del Narcea* の寄宿学校を借り切って行なわれ 8 月の最初の 2 週間は完全なアストゥリアス語のイマージョン状態が実現される。筆者は 2010 年と 2011 年にそれぞれ初級コースと上級コースに出席し修了したので、以下それについて内容を紹介する。

アストゥリアス夏期大学は、以下の 4 つのコースによって構成される。

- (1) アストゥリアス語初級コース *Cursu Elemental de Llingua Asturiana*
- (2) アストゥリアス語上級コース *Cursu Avanzáu de Llingua Asturiana*
- (3) 文化言語専門コース *Cursos d'Afondamientu Cultural y Llingüísticu*
- (4) ガリシア・アストゥリアス語コース *Curso de Gallego-Asturiano*

これらのうち、(4) のガリシア・アストゥリアス語コースは自治州のナヴィア川以西の地域での言語教育を対象とするもので、第一期と第二期に分かれ 2 年間にわたって行なわれる。夏期

大学は2012年で29年目にあたるが、ガリシア・アストゥリアス語コースは3年目で、2011年に初めての修了生が10名ほど出た。(1)は初級者向けで、制度上は誰でも出席出来る。ただし、あとに述べるようにこのコースは他の言語における外国人向けのコースと異なり、初級といっても出席者のほとんど全員はアストゥリアス語母語話者かスペイン語母語話者であるから、内容的には相当異なる。このコースを終えるとアストゥリアス語基礎知識証明 *Certificación de Conocencia Básica de la Llingua Asturiana* が与えられる。(2)の上級コースの受講資格は、前年度以前の夏期大学の初級コースを修了したもの、あるいはアカデミーが毎年1月と5月に行なっているアストゥリアス語認知試験 *Prueba de conocencia de la llingua asturiana* に合格していることで、アストゥリアス語基礎知識証明 *Certificación de Conocencia Básica de la Llingua Asturiana* を有することが条件である。初級コースと上級コースには最後に試験があり、合否が決定される。上級コースを修了するとアストゥリアス語上級知識証明 *Certificación de Conocencia Avanzada de la Llingua Asturiana* が与えられ、(3)の文化専門コースに出席出来、修了後、初等中等教育の現職教員の場合には、教員免許状にアストゥリアス語の資格が追加される。以前は、教職の就職に有利であったことから受講者が多かったというが、現在のスペインでは教職そのものの募集が少なく、特にこれで有利になるということはない。反面、自治体などがスペイン語とアストゥリアス語の二言語行政を進めているため、翻訳などの職種も増えていて、そちらの関係や地域語そのものや文化に対する関心から出席する受講者が多い。この他、上級コースは現職のアストゥリアス語の教員がブラッシュアップのために受講している例もある。また、これらの授業のすべてはオヴィエド大学の授業に単位互換可能であるだけでなく、オヴィエド大学で通年で行なわれているコースで代替することも出来る。夏期大学の講師は、現職の小中高大の教員でアカデミー関係者がほとんどで、同時に詩人や作家である場合が多い。2011年は35名、2012年は32名が講師を務めている。

アストゥリアス語に関するコースの内容を以下に紹介する。

(1) アストゥリアス語初級コース *Cursu Elemental de Llingua Asturiana*

アストゥリアス語初級文法 *Gramática elemental del asturianu* (10時間)

アストゥリアス語社会言語学 *Sociollingüística aplicada al casu asturianu* (10時間)

文法演習 *Ejercicios escritos* (9時間)

書き言葉演習 *Situaciones comunicatives escrites* (9時間)

話し言葉演習 *Situaciones comunicatives orales* (13時間)

アストゥリアス文学入門 *Averamientu a la Lliteratura Asturiana* (5時間)

初級コースと言っても、ほとんどがアストゥリアス語の母語話者であり、内容的には、通常のコースの上級レベルに近い。しかし、なかにはアストゥリアス語の教育を受けたことのない者もあり、標準語の基礎的な文法や書き言葉の知識にかける場合がある。初級文法と文法演習の時間に基礎的な内容が扱われ、社会言語学はほぼ講義で、書き言葉演習や話し言葉演習は、アストゥリアス語の実際の運用能力の強化にあてられている。文学の授業は、ほぼ文学史にそって主要な作品の鑑賞にあてられており、レベルは極めて高い。修了試験の内容は、書き取りとスペイン語

文章のアストゥリアス語訳，さらにテーマを選択しての論述から構成されている。テーマは、ほぼ毎年社会言語学か文学のなかからそれぞれ一題出題され、選択する形式である。

(2) アストゥリアス語上級コース *Cursu Avanzáu de Llingua Asturiana*

標準アストゥリアス語 *La llingua asturiana estándar* (9 時間)

現代アストゥリアスにおける言語と社会 *Llingua y Sociedá na Asturias de güei* (5 時間)

書き言葉演習 II *Situaciones comunicatives escrites II* (9 時間)

話し言葉演習 II *Situaciones comunicatives orales II* (9 時間)

アストゥリアス文化の諸相 *Aspeutos de la Cultura Asturiana* (5 時間)

アストゥリアスの歴史の諸相 *Aspeutos de la Historia d'Asturies* (5 時間)

現代アストゥリアス文学 *Lliteratura Asturiana contemporánea* (9 時間)

文学創作の技法 *Téuniques de creatividá lliteraria* (5 時間)

このコースはすでに母語話者の大学レベルの内容になっている。標準語と方言の関係や、書き言葉では、新聞記事や実用文の作成、さらに短編小説や詩の創作などを通じて高度な言語能力の養成がはかられる。民俗学や歴史、文学などの比重も高くなっている。修了試験の内容は、ほぼ初級に準じるが、レベルがやや高くなっている。ちなみに、2010年と2011年の受講者のなかにはスペイン人以外ではオーストリア人2名と日本人1名が在籍した。

(3) 文化言語専門コース *Cursos d'Afondamientu Cultural y Llingüísticu*

このコースの内容は毎年異なる。スペイン語からアストゥリアス語への翻訳を扱う授業は基本的に毎年開講されているが、それ以外は年度ごとのばらつきがある。1週目、あるいは2週目のみ受講するという形も可能である。以下、開講されたテーマを挙げる。

- ・アストゥリアス語への翻訳の理論的側面
- ・法律科学文書の特徴：翻訳の基準
- ・文学言語と新聞の言語
- ・マルチメディアとインターネット
- ・マルチメディアを用いた教育技法
- ・スピーチの技法
- ・新聞言語の実際
- ・アストゥリアス語における視聴覚言語
- ・ラジオ・テレビにおけるアストゥリアス語
- ・学校における祭りについて
- ・学校における伝統的な遊びとスポーツ
- ・アストゥリアスの伝統的な道具
- ・アストゥリアスの伝統舞踊
- ・アストゥリアスの伝統的民衆歌謡
- ・アストゥリアスの児童文学
- ・アストゥリアスの歴史

- ・方言、地名、口承伝承の調査入門
- ・地名学研究入門

<参考文献・関連サイト一覧>

Academia de la Llingua Asturiana (2001). *Gramática de la Llingua Asturiana. Tercera edición*. Uviéu:Academia de la Llingua Asturiana.

Academia de la Llingua Asturiana (2005). *Normes Ortográfiques. 6ª edición revisada*. Uviéu:Academia de la Llingua Asturiana.

García Arias, Xosé Lluis (2003). *Gramática Histórica de la Lengua Asturiana. Fonética, Fonología e Introducción a la Morfosintaxis Histórica. Segunda edición*. Uviéu:Academia de la Llingua Asturiana.

=====

- ・ポルトガル政府機関カモンエス院 Instituto de Camões
公式サイト (<http://www.instituto-camoes.pt/>)
- ・リスボン大学文学部外国語ポルトガル語評価検定センター Centro de Avaliação de Português Língua Estrangeira
公式サイト (<http://ww3.fl.ul.pt/caple/>)
- ・ブラジル政府公認 Celpe-Bras 試験
公式サイト
(http://portal.mec.gov.br/index.php?option=com_content&view=article&id=12270&Itemid=518)
- ・アストゥリアス言語アカデミーAcademia de la Llingua Asturiana
公式サイト (<http://www.academiadelalingua.com/>)